



笠原地区の79世帯が 環境活動モデル地区事業 ごみの減量と省エネ生活に挑戦します!

ライフスタイルを見直すことで、家庭から出るごみやエネルギー使用で排出される二酸化炭素(CO₂)を、どのくらい減らせるかを検証する「環境活動モデル地区事業」(市事業)。今年は、笠原地区の79世帯の皆さんがチャレンジします。

さあ、一体どれくらいごみやCO₂を削減することができるでしょうか。 ①環境政策課環境企画係 ②44-3135

取組内容

◇各家庭で、ごみ減量や省エネに関する「我が家の1エコ宣言」を設定。宣言をもとに、10～12月の3ヶ月間のごみの減量と省エネ生活を行います。

<我が家の1エコ宣言(挑戦家庭の実際の宣言)>

- ・電気はこまめに消す ・使っていないコンセントは抜く
- ・風呂の水を節水する ・生ごみを減らす
- ・余分なものは買わない、使わない

省エネ生活の実践

- ◇家電製品の利用方法などを再確認。エコライフの冊子をもとにチェックを行い、節電や節水などに努めます。
- ◇また、電気・ガス・水道・ガソリンなどの検針票や領収書の数値を記録し、省エネへの意識を高めます。



▲エコライフ冊子

ごみダイエット

- ◇燃やせるごみの日に毎回、ごみの重さを計り、「ごみダイエット表」に記録していきます。
- ◇重さは家庭の体重計で計測。まず、ごみ袋を持って体重計で計測①、次にごみ袋を持たず体重を計測②します。
- ◇最初の重量から、あとの重量を引いた数値が、ごみの重さです①-②=ごみの重さ。



前に計った時よりも減っているかな?

撮影協力：山田侑果さん(西区)

生ごみのたい肥化

- ◇通常は、家庭用生ごみ処理機やたい肥化容器で生ごみをたい肥化していきますが、今回、笠原地区では地域に豊富にある竹を細かく粉末状にした「竹パウダー」を使い、生ごみのたい肥化に挑戦します。
- ※竹パウダーによる生ごみのたい肥化は、竹を発酵させることにより増える乳酸菌などの作用によって、有機物を分解させるものです。

<竹パウダーの効果を検証>



発泡スチロールの容器に発酵した竹パウダーを入れ、生ごみを投入します。



2～3日後、生ごみはほとんど分解されました。気になるにおいもほとんど出ません。



インタビュー



笠原自治会連合会長 鈴木忠彦さん

笠原地区では、ごみ処理施設「中遠クリーンセンター」が区内にできたこともあり、住民一人ひとりが、環境問題やごみの削減に高い関心を持っています。

今回、この環境活動モデル地区事業に取り組むことで、環境のため、地球のために自分たちができることは何かを考えていければと思います。

結果は、後日、本紙でお知らせします。



昨年は中自治会が挑戦しました

- ◇平成21年度からスタートした「環境活動モデル地区事業」。昨年は、中自治会の62世帯の皆さんが挑戦し、大きな成果を上げました。
- 取組期間 平成21年10月～12月(3ヶ月間)
- 取組結果 ▽ごみ…月平均約340kgの削減
- ▽二酸化炭素…約2トンの削減

◇皆さんも身近なエコ活動から始め、CO₂削減に取り組みましょう。